

SEKISUI

積水化学グループ中間報告書

2015

(2014年4月1日～2014年9月30日)



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。積水化学グループの2014年度上半期の連結業績につきまして、ご報告申し上げます。

中期経営計画「SHINKAI-Advance 2016」のスタートとなる2014年度上半期の連結業績は、売上高は前年同期比2.4%増の5,459億円、営業利益は前年同期比11.4%増の417億円となり、増収増益となりました。とくに利益面では、営業利益、経常利益、純利益ともに上半期の最高益を更新しました。エレクトロニクス分野や車輛・輸送分野は海外を中心に競争力のある事業・製品が伸長し、国内の住宅・建築分野は消費税増税の影響を受けたものの、概ね計画どおりに推移しました。

下半期につきましても、海外ではグローバル戦略事業の強化、国内ではエネルギー自給自足型住宅やストックビジネスなど成長分野の強化に取り組むとともに、生産・物流など経営基盤の強靱化を推進し、通期の

売上高は前年度の1兆1,108億円を上回る1兆1,320億円、営業利益は過去最高益となる890億円の達成を目指してまいります。

なお、本年10月30日開催の取締役会において、当社普通株式1,200万株を総額150億円を上限として取得する旨決議するとともに、自己株式1,200万株を消却することを決議しましたので、ご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも厚いご支援を、引き続き、賜りますようお願い申し上げます。

2014年12月

代表取締役社長

根岸 修史

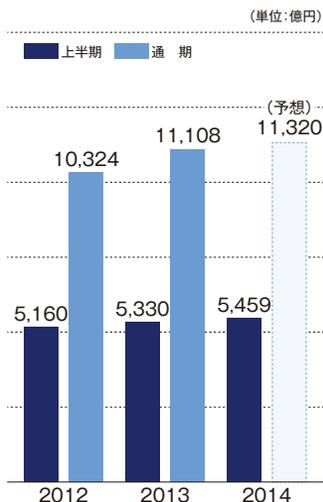


積水化学グループ上半期決算のご報告

売上高

5,459億円
+2.4%

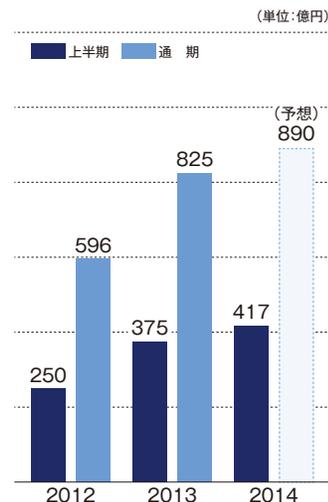
住宅の豊富な受注残から売上数量を確保できたことや、海外を中心とする旺盛な需要により高機能製品が伸長したことなどにより、2.4%増加しました。



営業利益

417億円
+11.4%

海外を中心に高機能製品が利益拡大に貢献したことに加え為替など外部環境の改善もあり、上半期の最高益を更新し、通期予想を870億円から890億円に増額しました。

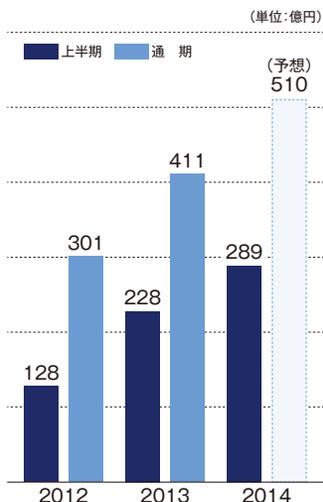


- 2 -

純利益

289億円
+26.7%

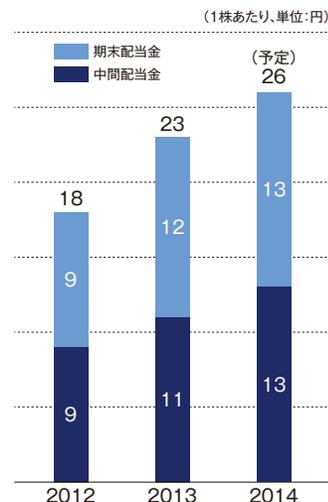
営業利益が増加したことに加え特別損失が減少したことにより、上半期の最高益を更新し、通期予想を460億円から510億円に増額しました。



中間配当金

13円

2014年10月30日開催の取締役会において、前年度の中間配当金より2円増額となる1株につき13円とし、支払開始日を12月1日とさせていただきますことを決議しました。



- 3 -

カンパニー別売上高・営業利益

売上高

(単位:億円)

	2014年度 上半期	2013年度 上半期	前年同期比 増減
住宅カンパニー	2,492	2,439	+53
環境・ライフラインカンパニー	1,064	1,097	-33
高機能プラスチックカンパニー	1,823	1,717	+105
その他	179	199	-19
消去又は全社	-101	-123	+22
合計	5,459	5,330	+128

営業利益

(単位:億円)

	2014年度 上半期	2013年度 上半期	前年同期比 増減
	206	202	+3
	1	9	-8
	222	168	+53
	-9	-6	-3
	-3	0	-3
	417	375	+42

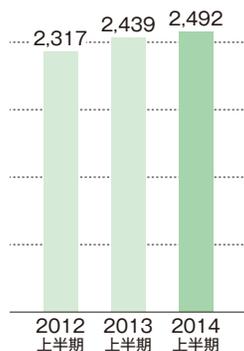
- 4 -

Housing Company

住宅カンパニー

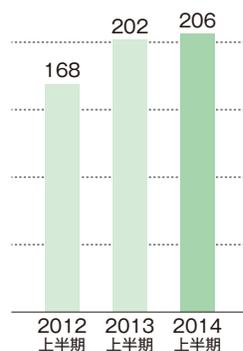
(単位:億円)

売上高の推移



(単位:億円)

営業利益の推移



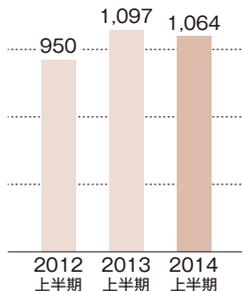
- 前年度の堅調な受注を受けて、増収増益となりました。とくに営業利益は、カンパニー制導入後の上半期の最高益を更新しました。
- 新築住宅事業は、消費税増税の影響により受注棟数は前年同期を下回ったものの、エネルギーの自給自足を目指す「スマートパワーステーション」シリーズの販売が増加し、概ね計画どおりに推移しました。
- 住環境事業は、バスコア・キッチンなど水まわり商材のほか、太陽光発電システムや蓄電池などのスマート系商材が伸長し、売上高は前年同期を上回りました。

- 5 -

環境・ライフラインカンパニー

(単位: 億円)

売上高の推移



(単位: 億円)

営業利益の推移



(注) 海外連結子会社の2012年1月から3月の実績を除いて記載しています。

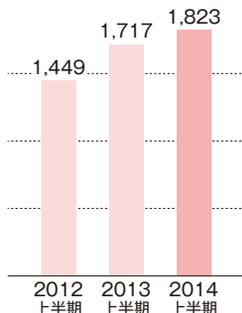
- 国内の公共投資は堅調に推移したものの、民需分野での消費税増税の影響などにより、減収減益となりました。
- 国内事業は、堅調に推移する公共投資を背景に官需事業の売上が増加しました。一方、民需事業はストック分野が拡大したものの、消費税増税の影響を受け減収となりました。
- 海外事業は、米国のプラスチックシート事業が航空機向け需要の拡大により順調に推移したものの、中国・新疆ウイグル自治区の治安悪化の影響を受け水インフラ事業は苦戦しました。

High Performance Plastics Company

高機能プラスチックカンパニー

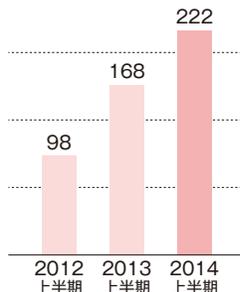
(単位: 億円)

売上高の推移



(単位: 億円)

営業利益の推移



(注) 海外連結子会社の2012年1月から3月の実績を除いて記載しています。

- 海外を中心とする旺盛な需要により、増収増益となりました。とくに営業利益は、カンパニー制導入後の上半期の最高益を更新しました。
- エレクトロニクス分野は、微粒子群やテープなどモバイル端末向け製品の売上が好調に推移しました。
- 車輛・輸送分野は、米国や中国などの需要増や欧州における拡販の進捗により、高機能品を中心に売上が増加しました。
- 住インフラ材分野は、インド・中東における耐熱管用塩素化塩化ビニル樹脂や国内の耐火材料などが拡大しました。
- ライフサイエンス分野は、検査薬、機器ビジネスなどのグローバル展開が進捗しました。

鉄骨系「V to Heim」を発売

本年10月、EV(電気自動車)と大容量の太陽光発電システムを連携させ、エネルギーの自給自足を目指す鉄骨系スマートハイム「V to Heim(ブイトゥハイム)」を発売しました。「V to Heim」は、住宅メーカーとして初めて、EVと太陽光発電システムとの系統連系システムを標準搭載し、EVを住宅用蓄電池として実用的に活用できるようにした住宅です。



「エスロヒートシステム」を発売

再生可能エネルギーの一つである地中熱・下水熱の利用システムについて、「エスロヒートシステム」として事業を開始しました。従来より販売している「地中熱-ポアホール型」、昨年度から販売を開始した「下水熱-らせん型」に加え、本年10月に「地中熱-水平型」を、12月より「下水熱-管底設置型」を新たに発売し、調査・設計・施工も含めたバリューチェーン展開により、事業拡大を図ります。



「エスロヒート地中熱-水平型」



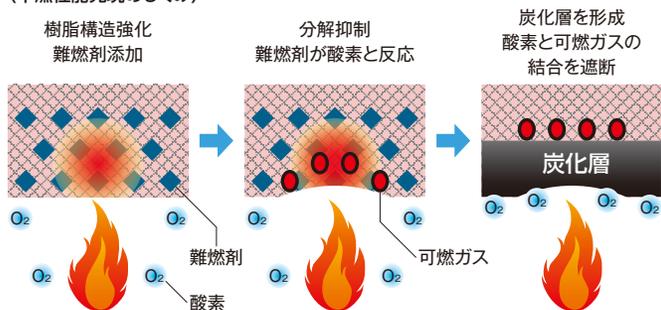
「エスロヒート下水熱-管底設置型」

- 8 -

「不燃材料」の国土交通大臣認定を取得

本年5月、ウレタン系材料による初の「不燃材料」国土交通大臣認定の取得を発表しました。今回開発した「不燃性ポリウレタン」は、加熱時に発現する特殊な炭化層により、酸素と可燃ガスの結びつきを遮断し瞬時に延焼を抑制する構造となっています。建築物のほか、車両・航空機や燃料電池・電気製品など幅広い分野での用途展開を見込んでおり、年内の製品発売を予定しています。

〈不燃性能発現のしくみ〉



第2回「SEKISUI環境ウィーク」を開催



積水化学グループでは、昨年度より毎年8月に「SEKISUI環境ウィーク」を設け、グローバルな環境貢献活動に取り組んでいます。今年度は、中国・蘇州の植林活動をシンボルイベントとして、社長や経営幹部をはじめ現地グループ会社の従業員とその家族約170名が参加して、桜の苗木約200本の植林を行いました。

- 9 -

連結財務データ

連結貸借対照表の要旨

(単位:百万円)

	2014年度上半期末	2013年度末
流動資産	475,501	494,660
固定資産	474,478	466,349
資産合計	949,979	961,009

(単位:百万円)

	2014年度上半期末	2013年度末
流動負債	348,338	388,365
固定負債	99,426	99,089
負債合計	447,765	487,454
純資産合計	502,214	473,555
負債純資産合計	949,979	961,009

連結損益計算書の要旨

(単位:百万円)

	2014年度上半期	2013年度上半期
売上高	545,921	533,056
営業利益	41,779	37,518
経常利益	45,865	38,989
純利益	28,927	22,826

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位:百万円)

	2014年度上半期	2013年度上半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	33,005	59,363
投資活動によるキャッシュ・フロー	11,904	-46,764
財務活動によるキャッシュ・フロー	-29,646	-11,994

-10-

株式の状況 (2014年9月30日現在)

発行株式数および株主数

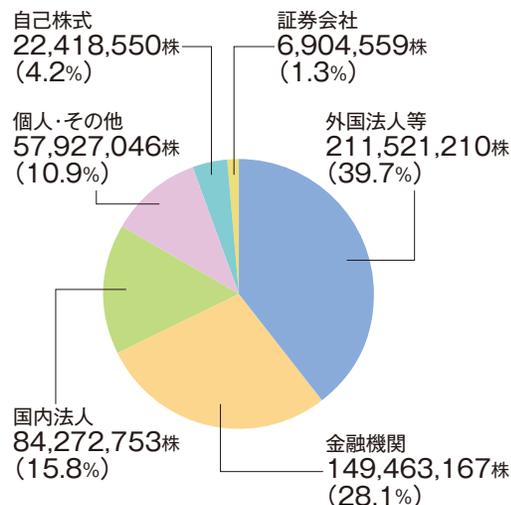
発行可能株式総数	発行済株式の総数	株主数
1,187,540,000株	532,507,285株	20,888名

大株主(上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
旭化成株式会社	31,039	6.09
積水ハウス株式会社	25,592	5.02
第一生命保険株式会社	19,681	3.86
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	14,660	2.87
東京海上日動火災保険株式会社	13,937	2.73
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	13,669	2.68
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505225	11,667	2.29
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウ	10,653	2.09
積水化学グループ従業員持株会	9,531	1.87
株式会社三菱東京UFJ銀行	7,618	1.49

(注) 1.当社は、自己株式を22,418,550株保有しておりますが、上記大株主からは除いています。
2.持株比率は発行済株式の総数から自己株式数を控除して計算しています。

株式の所有者別分布状況



-11-

株主メモ

株式に関するお問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号

電話(通話料無料) **0120-094-777**

- 三菱UFJ信託銀行では、特別口座に記載された株式をお持ちの株主様のお手続きのみを取り扱うこととなりますので、ご注意ください。
- その他の株主様の各種お手続きは、口座を開設されているお取引先の証券会社等にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金の受取方法のご指定等のお申出について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申出ください。

会社概要 (2014年9月30日現在)

積水化学工業株式会社 (Sekisui Chemical Co.,Ltd.)

創 立: 1947年(昭和22年)3月3日
資 本 金: 1,000億237万5,657円
本 社: 〒530-8565 大阪市北区西天満2丁目4番4号
グループ従業員数: 23,609名
ホームページ: <http://www.sekisui.co.jp/>
事業年度: 4月1日から翌年3月31日まで

取締役および監査役 (2014年9月30日現在)

代表取締役社長	根岸 修史	社外取締役	長島 徹※
取締役	高下 貞二	社外取締役	石塚 邦雄※
取締役	高見 浩三	常勤監査役	松永 隆善
取締役	久保 肇	常勤監査役	辻 清孝
取締役	上ノ山智史	社外監査役	長田 洋※
取締役	関口 俊一	社外監査役	大西 寛文※
取締役	加藤 敬太	社外監査役	小澤 徹夫※

(注)※印の5名は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員。

-12-

積水化学グループ2015カレンダーのご案内

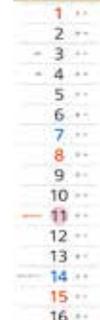
株主の皆様を対象に、積水化学グループ2015カレンダーを差しあげます。ご希望の方は、以下の要領にしたがってお申し込みください。

●お申し込み方法

同封いたしましたアンケートはがきに、必要事項をご記入のうえご返信ください。

●締め切り

2014年12月11日(木)到着分をもって締め切りとさせていただきます。
※お届けは12月下旬の予定です。



-13-

積水化学工業株式会社

株主様のお問い合わせはこちら

法務部総務グループ

電話:06-6365-4119

商品に関するお問い合わせはお客様相談室へ

(東京)電話:03-5521-0505

(大阪)電話:06-6365-4133

この報告書は以下のような環境配慮をして印刷・製本しています。

- ①製版工程では、使用後に廃材となるフィルムを使用しない、ダイレクト刷版「CTP(Computer to Plate)」を用いています。
- ②印刷工程では、VOC(揮発性有機化合物)の発生が少なく、生分解性や脱墨性に優れたインキを使用しています。